

2026 年度 授業計画(シラバス)

学 科	言語聴覚士学科 昼間部		科 目 区 分	専門基礎分野	授業の方法	講義
科 目 名	言語学(言語心理学を含む)		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	15 (1) 時間(単位)
対 象 学 年	1年		学期及び曜時限	後期 金曜2限	教室名	4校舎401
担 当 教 員	松井 理直	実務経験と その関連資格				
《授業科目における学習内容》						
ことばにおける記号としての性質, 記号の最小単位としての形態素, 語の構造, 文の構造, 意味の基本について解説する.						
《成績評価の方法と基準》						
学期末テスト(筆記試験)によって成績を評価, 60%以上の得点をもって合格とする.						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
教科書として『言語聴覚士のための基礎知識:音声学・言語学』(医学書院, 今泉敏編集)を用いる. また補助資料としてプリントを配布する. 参考図書は適宜授業中に紹介する.						
《授業外における学習方法》						
必ずその日の内に復習を行い, 授業で習った内容についてきちんと理解すること. 復習時に疑問点が出てくれば, 必ず次の授業の最初に質問すること.						
《履修に当たっての留意点》						
わからない点があれば, その時点で必ず授業をとめて, 質問をするようにしてください.						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第1回	授業を通じての到達目標	言語の生得的性質という考え方を理解し説明できる.		教科書とハンドアウト.	生成文法の例として, 主辞に関する性質を理解できるまで復習すること.	
	各コマにおける授業予定	生成文法と認知言語学				
第2回	授業を通じての到達目標	意味としての外延・内包を理解し説明できる.		教科書とハンドアウト.	外延と内包, 直示, 同意語・対義語などの基本を理解できるまで復習すること.	
	各コマにおける授業予定	意味論の基礎.				
第3回	授業を通じての到達目標	コミュニケーションにおける意味: 語用論を理解し説明できる.		教科書とハンドアウト.	新情報(未知情報・非共有情報)と旧情報(共有情報)について復習すること.	
	各コマにおける授業予定	新情報と旧情報				
第4回	授業を通じての到達目標	格助詞の機能を理解し説明できる.		教科書とハンドアウト.	格助詞と自動詞・他動詞の関係, 関係節との関係を復習すること.	
	各コマにおける授業予定	格助詞と動詞・関係節の関係				
第5回	授業を通じての到達目標	テンスとアスペクトについて理解し説明できる.		教科書とハンドアウト.	テンスとアスペクトの機能について復習すること.	
	各コマにおける授業予定	動詞後続形態素: テンスとアスペクト				

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	ヴォイスと極性、モダリティについて理解し説明できる。	教科書とハンドアウト。	各種ヴォイスの特徴、否定、対事的モダリティ、対人的モダリティについて復習すること。
		各コマにおける授業予定	ヴォイス・ポラリティ・モダリティ		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標	比喩と社会言語学について理解し説明できる。	教科書とハンドアウト。	暗喩と換喩の違い、地域方言と社会方言の違いなどについて復習すること。
		各コマにおける授業予定	比喩、社会言語学		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標	日本語の特徴について理解し説明できる。	教科書とハンドアウト。	言語学のまとめとして、膠着言語・主辞後置言語・関係節の種類などを復習しておくこと。
		各コマにおける授業予定	日本語の持つ各種特徴		
第9回		授業を通じての到達目標		教科書とハンドアウト。	
		各コマにおける授業予定			
第10回		授業を通じての到達目標		教科書とハンドアウト。	
		各コマにおける授業予定			
第11回		授業を通じての到達目標		教科書とハンドアウト。	
		各コマにおける授業予定			
第12回		授業を通じての到達目標		教科書とハンドアウト。	
		各コマにおける授業予定			
第13回		授業を通じての到達目標		教科書とハンドアウト。	
		各コマにおける授業予定			
第14回		授業を通じての到達目標		教科書とハンドアウト。	
		各コマにおける授業予定			
第15回		授業を通じての到達目標		教科書とハンドアウト。	
		各コマにおける授業予定			